

平成24年度「宝くじ松」配布事業 実施報告

当センターでは、(財)日本宝くじ協会の助成を受けて、全国のマツを守る活動を行う団体にマツ苗を配布し、マツ枯れにより失われた松原の再生を図るとともに、マツの保護育成技術の普及啓発活動を行っています。

これまでの配布実績

この事業は「日本の松の緑を守る会」が昭和60年に開始したもので、平成15年から当センターが引き継ぎ事業を進めています。これまでおよそ10万本あまりのマツ苗を500カ所以上に配布する実績をあげています。

①昭和60年～平成14年(日本の松の緑を守る会実施)

45 都道府県 413カ所 28,283本

②平成16～23年(日本緑化センター実施)

38 都道府県 121カ所 66,349本

24年度の実績

平成24年度は三重県、高知県、長崎県の団体に合計1,300本の抵抗性マツを含めた苗を配布しました(表1)。いずれもマツ材線虫病により既存の松原に大きな被害を受けた地域で、松原の再生に取り組んでいる団体です。三重県では、事業実施団体である今一色区自治会の指導のもと、伊勢市立今一色小学校の児童が課外授業の一環としてマツ苗の植栽を行いました。

これらのマツ苗が地域の方々に見守られながら成長し、未来の松原を形づくっていくことを願っています。

本事業は、毎年8月下旬より、次年度の実施団体を公募しています。

表1 平成24年度「宝くじ松」事業実施概要

都道府県	事業実施団体名 植栽場所	樹種	植栽本数 (本)
三重県	今一色区自治会 二見町今一色北浜地区	クロマツ	200
高知県	南国市海岸地域美化推進協議会 高知県南国市浜改田	クロマツ	600
長崎県	対馬森林環境整備緑化隊 佐護湊浜	クロマツ	500
計	3カ所		1,300



写真1 「宝くじ松」植栽箇所には、マツ樹植栽の趣旨と当センター並びに(財)日本宝くじ協会の寄贈であることを示す表示板を設置。(写真提供:今一色区自治会)